

Ⅳ 妊婦貧血の胎児におよぼす影響についての 臨床的及び疫学的研究 (分科会総括研究報告書)

愛育病院院長 産婦人科

松 山 栄 吉

分担研究課題：

I 妊婦の貧血と新生児の血液障害に関する研究

分担研究者(班員)：古谷 博・順天堂大学医学部産婦人科教授

II 妊婦の貧血と妊娠中毒症に関する研究

分担研究者(班員)：清水 哲也・旭川医科大学産婦人科教授

研究協力者：永井 生司・横須賀共済病院産婦人科部長

III 妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究

分担研究者(班員)：藤井 仁・愛育病院産婦人科部長

研究協力者：有広 忠雅・東京慈恵会医科大学青戸分院産婦人科助教授

〃 ；河上 征治・慶応義塾大学医学部産婦人科講師

IV 妊婦の貧血と周産期障害に関する研究

分担研究者(班員)：藤森 博・国立岡山病院産婦人科部長

研究協力者：関場 香・岡山大学医学部産婦人科教授

〃 ；高知 床志・岡山市立市民病院院長，産婦人科

研究目的：

妊婦の貧血の母体あるいは胎児に及ぼす影響については、まだ不明の点が多い、たとえば胎児の奇形発生との関連性については、疫学的にはまったく解明されていない。また妊婦の貧血が胎児や新生児の血液障害にどの程度の影響を及ぼすか、あるいは将来の小児の発育過程になにかの影響があるかどうか、まだ十分に解明されていない。

また従来からの妊婦の貧血の基準とされた数値が、現在でもそのまま適合しうるかどうか、もし変える必要があるとすれば、どこに新しい基準を置くべきか検討する必要がある。

研究方法：

上記の研究目的のために、この研究班をまず4群に分け、それぞれの研究協力者を決定した。それぞれの群の分担研究者および研究協力者は、前述のようである。

研究班内において、相互の研究テーマ、その研究内容などを討議し、決定するために、昭和52年8月6日、第1回の打ち合わせ会(分科会)を東京ステーションホテルにて開催した。その後分担研究副課題の若干の修正、研究協力者の追加などを行ったあと、各グループごとに研究を進めた。

昭和53年3月7日、第2回目の分科会の会合を東京ステーションホテルにおいて行った。各研究協力者より研究内容の発表を行い、相互に討論を行った。

研究結果：

1) 古谷 博：

静注用鉄剤であるコンドロイチン硫酸鉄を用い、動物実験では妊娠ラットに、臨床実験では貧血妊婦に投与を行って、胎仔ないし胎児への鉄の移行の状態、その利用率などを調べた。そして妊婦の貧血の新生児へ及ぼす血液障害について検討した。

2) 清水 哲也：

妊婦の貧血と妊娠中毒症の合併との関連性について、非貧血群と貧血群とに分けて観察を行い、妊婦の貧血の criteria についての問題点について検討した。

3) 永井 生司：

妊婦の貧血の状態について検索し、鉄欠乏性貧血との関連性について調べた。また晩期妊娠中毒症の血液所見について分析を行い、妊婦にみられる貧血と妊娠中毒症のさいとの所見の比較検討を行った。

4) 藤井 仁：

妊婦を貧血群と非貧血群とに分け、両者よりの分娩の異常の有無、妊娠中毒症発現の状態とその症状、出生児の状態、貧血の有無、満1歳時歩行通過率などにつき、比較検討を行った。

5) 河上 征治：

分娩前後の母体末梢血液中のヘモグロビン値差と、産褥初発排卵の検討を行った。

6) 有広 忠雅：

妊婦の貧血が胎盤の形態および機能に、いかなる影響を及ぼすか、さらにそれが胎児の発育にどのような影響を与えるかについて、検索を行っている。

7) 藤森 博：

妊婦貧血と低出生体重児との関連性について、統計的な調整を行い、また妊婦貧血とアプガー・スコアとの関連性についても検索した。とくに昭和36年の調査結果と、今回の調査結果とを比較検討した。

8) 関場 香：

母体の貧血の胎児に及ぼす影響を調査するために、ラットを用いて貧血の妊娠母体を作り、胎仔の諸臓器について検索を行った。

9) 高知 床志：

妊婦の貧血の周産期に及ぼす影響について、SFD、新生児死亡、胎児仮死、奇形、周産期死亡などにつき、分析を行い、その相関関係について検索した。

考察ならびに要約：

妊婦貧血が放置されていた15年前と異り、その後は妊婦管理がよく行われるようになり、とくに貧血に対する検査や治療が積極的に実施されている現在において、妊婦貧血による母体ないし胎児への影響は、著明に減少してきている、このような現状にあって、妊婦の貧血の母体ならびに胎児に及ぼす影響は、昔と比べてかなりその様相を変えている。それと同時に、従来妊婦の貧血の基準とされていた血色素値11.0 g/dl という数値も、再検討の時期に来ているといえよう。現状に沿った妊婦の貧血への対策の研究をさらに追究していく必要がある。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的;

妊婦の貧血の母体あるいは胎児に及ぼす影響については、まだ不明の点が多い、たとえば胎児の奇形発生との関連性については、疫学的にはまったく解明されていない。また妊婦の貧血が胎児や新生児の血液障害にどの程度の影響を及ぼすか、あるいは将来の小児の発育過程になにかの影響があるかどうか、まだ十分に解明されていない。